

1. 授業の基本情報

本授業は学部特別支援教育専門科目であり、登録学生数は41名で、うち6名は大学院生であった。

授業の目的は、「知的障害児教育がどのような過程を経て、現在の教育が確立したか、その変容過程を理解すると共に今後のあり方を展望する。」「知的障害児教育の教師が身につけなければならない指導法、学級経営法の基本について理解する。」の2点であった。

2. 授業評価・授業研究の内容

(1) 問題と目的

本授業では、知的障害児教育の歴史や、教育課程の変遷、具体的な指導法を取り扱った。授業に際しては、実際の学校現場の様子を伝えると共に、冒頭で学生の質問に答える時間を設けた。また、特に教育課程については、各自で調べた内容を共有する場面を設定し、多様な考え方に触れる機会を確保した。これらの教授法の効果について検討することを目的とし、授業アンケートを実施した。

(2) 方法

授業最終回の Moodle にアンケートの URL を掲載し、回答するよう連絡した。アンケートは Google form で作成し、受講生は無記名で回答した。実施期間は 2024 年1月 25日から2月 13 日であり、回答数は20、回収率は48.7%であった。アンケートの項目と回答方式を表1に示した。

表1 アンケートの項目と回答方式

| アンケート項目                           | 回答方式      |
|-----------------------------------|-----------|
| ①授業の内容はあなたの役に立ちましたか？              | 選択<br>4件法 |
| ②教員の話し方や説明は分かりやすかったですか？           |           |
| ③配付資料やプリント等の教材は適切でしたか？            |           |
| ④授業の進度は適切でしたか？                    |           |
| ⑤授業のレベルは適切でしたか？                   | 選択<br>5件法 |
| ⑥この授業1回につき、平均してどの程度時間外学習をしていましたか？ | 選択<br>4件法 |
| ⑦あなたが学びたかった内容を学ぶことは出来ましたか？        |           |
| ⑧この授業の良い点について教えてください              | 自由記述      |
| ⑨この授業の改善すべき点について教えてください           |           |

(3) 結果と考察

アンケートの結果を図1から図4、表2に示した。なお、項目1「授業の内容はあなたの役に立ちましたか？」は全員が「そう思う」、項目2「教員の話し方や説明は分かりやすかったですか？」は全員が「とても分かりやすい」、項目5「授業のレベルは適切でしたか？」は全員が「適切」を選択した。項目9「この授業の改善すべき点を教えてください」については6名が回答し、すべて「特になし」に類する内容であった。

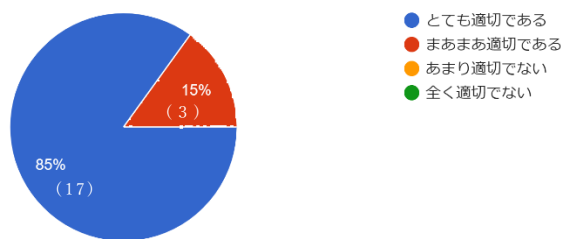


図1 項目3の回答内容

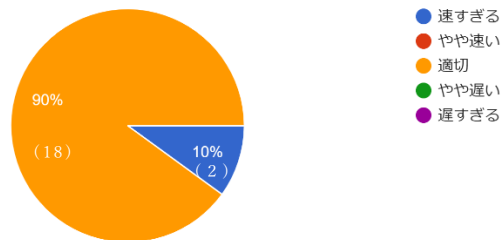


図2 項目4の回答内容

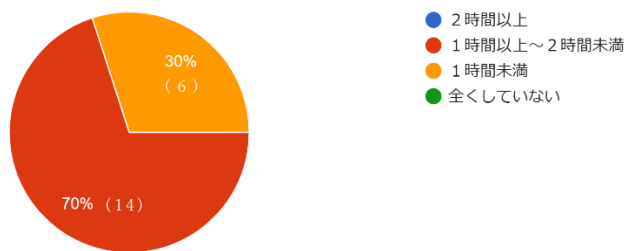


図3 項目6の回答内容

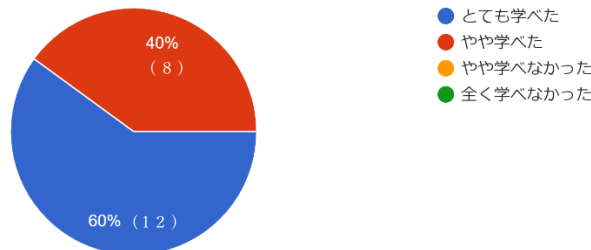


図4 項目7の回答内容

授業内容、教員の説明の分かりやすさ、教材の適切さについては否定的な回答はなかったものの、授業の進捗については「速すぎる」との回答が2件あった。中間評価を行うなど丁寧に理解度を確認しつつ、より分かりやすい授業を目指したい。また、学びたかった内容を学ぶことができたかについては、「やや学べた」との回答が8件あった。シラバスで授業内容を明示するとともに、授業初回にオリエンテーションを行ったものの、学生の授業に対するイメージと実際の内容が異なっていたのかもしれない。学びたかった内容に関して、自由記述等に記載はなかったものの、初回にアンケートを行うなどして学生のニーズを的確に把握し、可能範囲で対応していきたい。

表2 ⑧「この授業の良い点について教えてください」に対する回答内容(原文ママ)

| 質問に対する回答  |
|---|
| 様々な事例を挙げてどのように配慮しているのか学ぶことができたことが良かったです。  |
| 最初に質問や感想から始まっているため、気軽に質問でき、また、実体験を話していただけるため、楽しく受けられた。  |
| 働いていた経験も踏まえてお話しくださるので、学校の様子がイメージしやすかったり、将来役に立ちそうなことが多いなど思った。  |
| 特別支援学校ではどのようなことをしているのかということを知ることができた。通常の学校とは別の世界というイメージを持っていたことに気付くことができる授業だった。                                 |
| 知的障害について特別支援学校や特別支援学級など幅広く学ぶことができる点。<br>先生の体験談を聞くことができ、特別支援学校教諭の大変さだけでなく、子どもの成長を感じることができるなどのやりがいについて感じることができる点。 |
| 実際の教育体験も同時にお話しされていたため、現場をイメージして授業内容を考えやすかった点。   |
| 実態に応じた内容を学べる点   |
| 先生の現場での経験を聴くことができた。   |
| 先生が学生の質問に毎回答えてくれる   |
| 富田先生の実際のご経験をもとにお話を伺えた点。質疑応答の時間があった点。  |
| 現職の先生の教育現場での実際のお話しをおききすることができた点がよかった。また、具体的なエピソードや学校の写真を見せていただき、知的障害教育の雰囲気を知ることができてよかった。                        |
| 知的障害児の教育課程について、その歴史や根本的、基本的な考えなどを体系的にまなぶことができた。また、先生ご自身の実践を交えながら具体的にご指導していただけたので、大変分かりやすかった。                    |
| 特別支援教育(知的障害教育)の基礎から丁寧に学ぶことができる。先生の体験を踏まえたお話を聞くことができ、具体的に理解することができた。   |
| 先生の実際に経験した上で重要なことを聞くことができ、毎回の課題で質問に答えてくれるところがとても学習になり、良かったです。   |

本授業の良かった点については、14名から回答があった。その内、11名の回答に「様々な事例」「実体験を話していただける」「働いていた経験も踏まえて」「先生の体験談」「実際の教育体験」「先生の現場での経験」「実際のご経験」「教育現場での実際のお話し」「先生ご自身の実践」「先生の体験」「実際の経験した上で重要なこと」といった、具体例に基づいた説明に関する肯定的な記

述があった。知的障害教育は、多くの受講生は実際に体験したことがないため、授業者の現職経験を踏まえた説明によって理解が深まり、具体的なイメージをもつことに繋がったのではないかと考えられる。

また、各回の授業後に Moodle にリフレクションを提出させ、その中に書かれていた質問に次の回の授業の冒頭で答える時間を設けていた。それに関しては、4名の回答に「最初に質問や感想から始まっているため、気軽に質問でき」「先生が学生の質問に毎回答えてくれる」「質疑応答の時間があった点」「毎回の課題で質問に答えてくれる」といった肯定的な意見がみられた。本授業では口頭のみでの回答であったが、視覚的に情報を提示したり質問・回答を共有したりして、学生の学びが深まるような方法を検討していきたい。

課題としては、時間外学習の少なさが挙げられる。今回の調査では、70%の学生が1時間以上～2時間未満、30%の学生が1時間未満という結果であった。学生によっては、リフレクションの中に自分で調べた内容を記述している者もいたが、ごく少数であった。学生のより主体的で深い学びを促すために、時間外学習の設定や評価等を工夫したい。